



新潟(長岡)支部 浅利親男

参加しよう!!支部懇談会へ

前略 育友会の皆様、お元気ですか?新潟県柏崎市の酒商人です。今年の支部懇談会には参加しましたか?

地方の者にとっては、なかなか大学まで行って行事に参加するというのは難しいものがあります。そこで、私は支部懇談会にはなんとか都合をつけて参加するようにしています。

育友会夏号に載っていますように、大学教職員が各支部を分担し、大学のこと、学業のこと、就職のこと等、また個人・グループ面談でもお話いただきます。新潟(長岡)支部では導入部で大学のDVD上映があり、歴史・校風・姿勢などを感じ取ることができます。その年ごとに、目的をもって参加すると、とても有意義な4年間になります。

1年次は親子とも不安が大きく、単位の取り方、進級についてなど学業面での質問をしました。2年次は中だるみにならないよう、バイト依存症への注意をし、3年次は就職を具体化させ、学業対策も子どもと話をしてきました。20歳を過ぎると自己責任の部分も多くなりますが、親として押さえるところは押さえておくべきだと考えます。4年次は進化・成長させながら、仕事現場でのシミュレーションをしていきます。学歴社会は続いています、どこを卒業したかではなく、何を学んできたか、学んでいたか、が大事だと考えます。

企業の採用担当や新人育成の担当の声を聞くと、育友会で聞く就職活動の傾向と同様で、指示待ちの人は

まだ多くいるようです。また、自分の生活を中心に考える人が圧倒的に多いとのこと。高卒の場合は経験をしながら鬼門の3年を過ぎると労働環境も変わり、後輩も増えて、仕事量、責任も増えます。大学生はそこからになるので、企業により異なりますが、即戦力が求められます。インターンシップやデュアルシステムを活用して、即戦力になれるよう努力してください。

働き方改革は中央と地方ではその進み方のスピードが違いますが、労使間の透明度の高いところほど、若い力は多くいます。伝統があっても社内の風通しの悪いところや保守的すぎるところは嫌われているようです。

以上のようなことは保護者の皆さんはよくご存じのことだと思います。難しく考えず、せっかく専修大学に関わった者同士として、いろいろな話をしてみよう。受け身でなく、発信したり、交流することも専修大学育友会の良さだと思います。

140周年を迎える大学に敬意を表します。少子化で大学も学生募集に苦労されていますが、育友会の良さを活用し、大学と共に継続させていきましょう。また、育友会を卒業したら校友会の会員として、大学を、そして、卒業生たちを見守っていきましょう。

子どものおかげで大学生の親をやらせてもらえたことは、とても嬉しく思います。与えられた環境で創意・工夫・努力で生きていきましょう。

では、また。ありがとうございました。 草々